

YOUNG BUDDHIST ASSOCIATION MAGAZINE
<http://www2.hongwanji.or.jp/yba/>

№ 139

makoto

浄土真宗本願寺派
仏教青年連盟機関紙「まこと」
2008(平成20)年3月15日発行
編集/発行: 仏教青年連盟 広報委員会
印刷: 創文堂印刷株式会社

〔まこと 139号〕
編集・三浦明利 南莊泉 大沼浩美 加藤心樹 藤原慈信
写真・北條朋

02 特集1
聞くを育てる。

住職課程(伝道院)について、ご執筆いただきました。

04 特集2
菊を育てる。

本願寺献菊展へ取材に行ってきました。

07 連載
彼國の便り

馴染みやすいご法話です。

08 エッセイ
きいて。ひとりごと。

皆さんも一緒に考えてください。

09 CDの紹介
本願寺派僧侶「やなせなな」さんの作品を紹介。

10 特集3 GO!当地
いいねっか湯沢

全国真宗青年の集い開催地へ取材に行ってきました。

12 告知
行事予定など、いろいろな情報を掲載。

編集後記

この冊子を編集する輩たちのコメントリイ。



今回のまことのテーマは「きく」。

一般的なものから浄土真宗におけるものまで、

さまざまな「きく」を探してみました。

アナタにとって、ワタシにとって

「きく」って何ですか？



聞くを育てる。

文・藤原慈信 写真・北條朋

私は伝道院(住職課程)の第四三期で、ご苦労さまをいただきました。そこで驚いたのは、ほとんどの講義の題名が「〇〇に聞く」と題してあったことです。「学ぶ」ではなく、「聞くの私が聞かされる」ところがミソなんです。「さすが伝道院だね」と、青い才ながら感銘したことを覚えています。今だから言えることですが、私にとって伝道院は布教使になるところではありませんでした。浄土真宗の「僧侶として、この私が親鸞聖人のみ教えを伝えさせていただくことを、自分に問い聞かされる大切な場所だったんです。

合掌

伝道院での聴聞について

文・平井泰威(東北教区宮城組恩慶寺)

第四二期住職課程修了

もの見方などが今までいかに狭く、ちっぽけだったかということでした。

伝道院というところは、全国の法友を作る事ができますし、また自分自身をみつめる貴重な時間をいただくことのできる場所です。今回は「伝道院での聴聞」というテーマですが、伝道院の講師がおっしゃっていました。「伝道院では、み教えを聞いていくたびに自分自身がおろかになっていくものですよ」と。きっとそうだろうと私も思います。我々はついつい自分の姿を見失い、自己中心的な生活を送りがちですが、法という「鏡」をもって私の姿を常日頃見ていきたいものです。

当初、私は伝道院に行くことは全く考えていませんでした。在家である私が伝道院に行くきっかけとなったのは、ある方との出会いからでした。その方への憧れから、知識の幅、何よりも自分自身を高め、周りに認められたいという気持ちが起こり、私を伝道院へと向かわせました。

いろんな不安や希望を抱えながら、いざ入所すると規則正しい生活が始まり、そしてお聴聞の毎日でした。そこからいろんなことを気付かせていただきました。その気付きとは、いろんな方の聴聞をしていくなかで、私自身の知識はもちろん、

伝道院に行かれるきっかけは人それぞれ違うでしょうが、お念仏の世界が伝道院で出会う人の数だけあるということとはとても有難いことですし、恵まれていると思います。私にとって、お念仏の世界観を拡げてくれた場所でありました。

合掌

菊を育てる。

文・吉田明利 写真・北條朋



第54回本願寺献菊展にて『本願寺賞』を受賞された八木弥寿子さんに、菊を育てる魅力について聞かせていただきました。

〈八〉八木さん 二二〇三浦

〈三〉なぜ、たくさんのお花がある中から菊を選んで育てているのですか？

〈八〉菊には、吸い込まれるような「美」があるからです。直径24センチもある花を友達に見せる時に「ほら、上からのぞいてごらん」と言うのですよ。そうすると、菊の魅力に心が安らぎます。

〈三〉菊はどのように育てるのですか？

〈八〉菊は、毎年切って、またそれを育てて…というように、繰り返し手入れが続くのです。山からは落ち葉を拾い、池からは腐葉土を運んできて、大切に



「なんてキレイな菊なんでしょう。同じ鉢の菊でも、ひとつだけ先にしおれてしまっていますね。私のいのちもこの菊のように先の知れないものなのでしょう」と参拝者の声。



育てます。菊はデリケートな花なので、アスファルトの上で育てるより、土の上で育てた方がイキイキとするのです。どんなに手間がかかっても、この美しい菊の魅力は手放せません。

△△△のような思いで、本願寺に献花されたのですか？

△△△お参りに来られる方に見ていただきたいのです。菊は見る人を元気にさせます。参拝に来られた方にも元気になっていただきたい思いがありました。また、菊を育てている私自身も元気になるのですよ！

△△△菊を育てるって、自分を育てることなんですわえ。

「きく」ってなんですか？

コンテンツが
ムズかしいこと

受け入れること

外問は必ず聞く！

夕マる。

受けとめること

自分自身を見直す
きっかけになること。

楽しくて、大切なこと。

私を問われること

心を見ま

情報収集

できそうでできないこと



彼國の便り

聞こえてくる名前

文・森田真円

「往くを聴、来たるを聞」という言葉があります。こちら側から「ききに往く」のを「聴く」と表します。例えば、お医者さんの聴診器は、患者さんの体内の音を聴きに往くものです。反対に、向こうから「きこえて来る」のを「聞く」と表します。かつて、華道・茶道などと共に盛んであったものに香道がありますが、香道では、お香の香りを嗅ぐとは言わず、「香を聞く」と言います。向こうからほのかにただよってくるから、「香を聞く」というのでしよう。

仏教では「聞く」ということがとても大切にされます。まず第一に、お経は「如是我聞」（かくのごとく、われききたてまつりき）から始まります。また、「仏説無量寿経」には、「聞其名号 信心歡喜」（その名号を聞きて信心歡喜せんこと）とあって、何と言っても仏さまのお名前（名号）を聞くことがとても大切であると示されています。

名号の名という字は、夕と口が合わさってできあがっています。夕方の薄暗い中で、「ここにいるよ」と口をあけて声を出して名告るという意味です。号とは、号泣などというように大声という意味です。仏さまのお名前は、暗闇の中で何処に向かって行けばよいかわからない私に向かって、向こうから大声で「大丈夫だよ。ここにいるから！」と名告っておられるという意味です。

この仏さまの名告りのよび声を名声といいます。「重誓偈」に「名声超十方 究竟靡所聞」とあるように、仏さまの名声は、十方のあらゆる方向から聞こえてきます。いつ何処にいても、私に寄り添って、私を救いたいという仏さまのよび声をそのまま聞くことが大切です。自分の勝手な思いを交えずに、向こうから聞こえてくる仏さまのお慈悲の心に順うことを信心といふのです。



もりた しんねん
本願寺教学伝道研究所 所長

きいて。ひとりごと。



文・井上 泉

今朝、久しぶりにテレビのワイドショーを見た。日本のどこかで起こった殺人事件の話題だった。事故現場や犯人の性格など様々な情報が次々と派手なテロップと共に放送されていた。ほんやりとその映像を見ていた私は、ふいに不快感に襲われチャンネルを変えた。原因はおそらく、映像のバックで流れているパニック映画のようなBGMだったと思う。

チャンネルを変えた後、まるで映画を見るように映像を見ていたそれまでの自分に驚いた。映画を見ているわけではないのだ。その事件には被害者も加害者もいて、その家族や恋人もいるのだ。その人たちがあの『演出された』映像を見ているかもしれないというのに。

BGMは映像にとって大きな効果を生むものだと思う。以前放送局でコマーシャルの放送準備に関わっていたことがあるが、制作者が映像にどのBGMを合わせるかで悩んでいる場面をよく目にした。BGMは映像に服を着せ、映像自体が持っている個性をさらに増大させるようなものだ。服を着替えれば印象はガラリと変わる。魅力的だが、同時に怖いものだと思う。視聴者に感情を押し付ける可能性があること、そして過剰な演出によってまるで映画を見ているような感覚に陥る危険性があることから、そう思うのである。

阪神淡路大震災が発生した日、全国放送のワイドショーでは騒々しく『演出された』映像が流れた。おそらく当時テレビを見ていた人には、まるで映画を見ているかのように感じられただろう。果たして事実はどれくらいまっすぐに伝わっていたのだろうか。同じ時、被災地のローカルラジオからは、歌詞がなく静かでゆったりしたBGMと速報のみが流れていたという話を聞いたことがある。どちらが被災者の方々の心に寄り添った放送か、想像してほしい。

別に、放送局を責めているのではない。そういった映像は、求めている視聴者がいるからこそ生み出されるという悲しい事実があるのだから。怖いのは、実はBGMの効力ではない。そういった映像の演出に慣れ、囚われ、現実を架空の出来事のように視聴している私自身の心が一番怖い。

まどわされてはダメだ。まずは自分の耳と目で、決して映画などではない、そこにある現実を感じる努力から始めてみたい。

CDの紹介

文・井上泉

声にも、詞にも、楽器の奏でる音にも、このCDには「貫して『やさしさ』が漂っている」。決して押しつけられることのない、ただそこに漂っているやさしい温もりに包まれて、わたしの心が穏やかになっていくのを感じた。そんな、やなせさんの最新アルバム「遠い約束」、聞いてください。



遠い約束
やなせなな

作詞をする際、私は自分自身の体験を元にすることはほとんどありません。たとえば友達、家族、ご門徒さん、テレビのドキュメンタリー番組など、どこかで聞いた誰かの物語に心が動かされたとき、その人の物語を描きたくて、歌を作っています。誰かの想いや生き方を聞き、そこから歌を紡ぎ、音楽でお返しする。もう一度「誰か」と巡り逢いたくて、わたしは今日も耳を澄ましながら歌っています。

やなせなな



やなせなな

シンガーソングライター。1975年生まれ。奈良県出身。

浄土真宗本願寺派僧侶。龍谷大学文学部卒。能楽シテ方金春流・謡曲仕舞教授。

大学在学中より、ヴォーカリストとして関西を中心に精力的にライブ活動を行い、2004年5月マキシシングル『帰ろう。』で全国デビュー。日本語の美しさにこだわった歌詞と、美しい旋律、一瞬で聴き手を惹きつける歌声を持ち味とし、僧侶という視点から、生と死を深く見つめる歌を数多く制作。ライブハウス・コンサートホール・カフェなどのほか、病院・ホスピス・福祉施設・寺院・教会・学校などでのライブ活動や講演会も行っている。その世界観は、中高年を中心に確かな支持を獲得している。

<http://www.yanasenana.net/>

いいお米が 湯沢



文と写真・麻田 弘潤
(新潟教区 仏教青年連盟)

今年の全国真宗
青年の集いは、スキ
ー場と温泉で知ら
れる新潟県湯沢町
で開催される。今
回は湯沢駅周辺を
散策しながら、湯
沢の魅力を紹介し
ていこうと思う。



新潟といえば日本酒が有名だが、それを証明するかのように駅構内には「ほんしゅ館」といわれる土産物屋がある。館内に入ってみると、一面に広がる酒風景！思わず酔ってしまいそう。館内には日本酒の利き酒（約130種！）ができるお店がある他、魚沼産コシヒカリの巨大おにぎりが食べられるお店や日本酒の入ったお風呂もあるので、全国大会が終わったらすぐに帰らずに立ち寄ってみるといいかも。ちなみに利き酒のお店「越乃室（こしむろ）」の店主にお勧めのお酒を聞いたところ、地元魚沼の蔵元のお酒がいいとのことだった。二十歳以上の方、他のお酒で泥酔する前にどうぞ。

駅を出ると温泉街になっていて、いくつもの旅館・民宿がならんでいる。歩いてみると、いくつかの足湯があったり、新潟の名産品を売っている店があったりと観光地らしい風景が広がっている。その中でも目を引いたのが「世界一の安売り王」と銘打った野菜の路上販売所だ。確かに安い。山笠かぶった安売り王によると、夏は

スイカやクワガタ(野菜じゃないし...)が売られてるそうさ。ちよつぱりシャイで笑顔が素敵な安売り王の新鮮野菜をお土産に持って帰ろう。



「王」のワリには、あまりにも簡素でオープンな安売り王の岩(とりで)。そしてこの紳士が「世界一の…イヤ、私には『宇田一の安売り王』にも見える。

その他にも昔懐かしい射的のお店が何軒かある。今回は「山崎屋」というお店にお邪魔した。出てきた店主は小柄なおばあちゃん。かわいらしい人だ…。



ときは平成一。原油価格の高騰、株価の暴落、偽装問題、IT社会など、あらゆる社会の束縛から解放されそうなこの店構え。これ以上の昭和遊技場建築はあり得ないだろう。



さつそくやってみると、これがなかなか難しく、ほとんど当てることのできない。外れるたびにおばあちゃんの「何やってるの？ 真つ直ぐ打てないのかねえ、まったく」とキツイ言葉が飛んでくる。「真つ直ぐ弾を込めれば真つ直ぐ飛ぶのよ」といわれるが、そのコルクの弾はボロボロになっていて、どう入れたら真つ直ぐになるのかも分からない状態だ。やつと当てても「それは五つ当てなきゃダメなのよ」といわれる始末。そんなこんなで全く商品を当てることはできなかったが、最後に大きな青い鈴を出してきて「奥さんからつけてもらいなさい。あなたが夜出かけても悪さができないようにね(ニヤリ)」とプレゼントしてくれた。毒舌だけど何か温かい気持ちになれるお店だった。

旅の醍醐味はお土産などではなく、その土地の人達と交流することだと思う。湯沢に来たら、ぜひ町を歩いて地元の人との交流を楽しんでもらいたい。

生
知



◎ 全国真宗青年の集い 新潟大会

日時：2008年7月26日(土)～27日(日)

会場：NASPAニューオータニ

日々の生活の中で、様々なことに縛られていませんか。
この新潟大会で、ときはなたれる瞬間を一緒に感じましょう。
全国からたくさんのご参加をお待ちしております。

お問い合わせ：実行委員会事務局(新潟教区教務所)

電話：0258-72-2120

<http://www.tokihanatsu.com> (2008年4月OPEN)

「編集★後記」

三浦★明利 仏青は仏縁によって引き寄せられた仲間とクリエティブな活動のできる憩いの場。「まこと」や仏青HPを一新してきたこの二年間。何人もの仲間が集まって、ひとつのモノを作り上げるといふ経験を繰り返してきました。それまで自作自演家型だった私には、それが新鮮で魅力的なことでした。みんなで作って行くって面白いことですね！私が「まこと」の制作に携わるのは、この号で最後です。「まこと」の制作で出会った皆さん、そして読んで下さった皆さんありがとうございます。次号から読者となる私自身、楽しみにしています。皆さん、これからの「まこと」をよろしく。

大沼★浩美 「人の話を聞くことは何て難しいことか！」と、最近つくづく思うようになった。子供の時はまだ素直に人の話を聞いていたように思うが、だんだんと人の話を聞いていっても「ああそうか」ではなく「でもね…」と最初に言ってしまうようになった。自分以外の誰かを理解することは難しいけれど、まずは黙って相手の話に耳を傾けてみよう…そう思うおかなのでした。

井上★泉 地元に戻ったら街のカフェに「まこと」を置いてもらおうと思う。思えば、理想の「まこと」は、そんな風にいるんな世界へ飛び出していけるものだった。「普段はお坊さんや大学生や学校の先生や会社員をしている人たちが、京都のお寺に集まって作ったんです！」と胸を張って持つていこう。

加藤★心樹 このメンバーでの「まこと」制作は最後になりますかねえ？広報といっても普段は皆さんお仕事があったりして、年に数回ほどしか会えない状況での制作ですが、新しい発想にシゲキを受ける経験は楽しいの一言。仏青が好きの人、「まこと」を作りたい人、PCから離れられない人、センスが良いと思ひ込んでる人、広報にドーンとこい！

藤原★慈信 「センスが良い」と「思い込んでる」人「ってオレのことか？コニヤロウ！（怒）…って確かにそうだわ（涙）。「まこと」や「仏青」はまだまだ変われる。可能性に壁はない。ただ個人のパフォーマンスには限界があつて、その臨界点をお互いが高め合える「新しい風」が必要。誰もがやりたくて仏青をやつてるワケじゃないと思う…たぶん。でも確かなのは「誰かがやらなければならぬ」、「させていただかなくてはならない」と気付かされたからじゃナイんかなあ。おかげさまで、キレイごとをまかり通さなければならぬ時もあるこの世界。責任は重大。でもその心配はご無用、先人方がシツカリとその責任を執っていただけるので。ホレツ、仏青に、広報にドォーンと来いっ！ヨォーイヤサア、ヨォーイヤサア！

とぎはなし



2008年7/26(土) ▶ 7/27(日)

**全国真宗
青年の集い
新潟大会** in 湯沢

お問い合わせ：実行委員会事務局(新潟教区教務所) TEL.0258-72-2120

浄土真宗本願寺派
仏教青年連盟機関紙

wakata No.139

2008(平成20)年3月15日発行
編集/発行 仏教青年連盟 広報委員会

印刷 創文堂印刷株式会社

【浄土真宗本願寺派 仏教青年連盟 広報委員会】

〒600-8501 京都市下京区堀川通花屋町下ル

浄土真宗本願寺派 宗務所内

電話：075-371-5181(代)

メール：yba@hongwanji.or.jp

http://www2.hongwanji.or.jp/yba/



4910753715181
00139